

こんにちは。文化財課の児玉です。

今回は、ユネスコの事業のうち「ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）」と「ユネスコ世界ジオパーク」の2つの事業について紹介します。

「ユネスコエコパーク」は、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

世界遺産（自然遺産）が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としています。

現在、世界で124か国、701地域がユネスコエコパークに認定されており、そのうち日本では、志賀高原（1980年/長野県・群馬県）、白山（1980年/石川県・岐阜県・富山県・福井県）、大台ヶ原・大峯山・大杉谷（1980年/奈良県・三重県）、屋久島・口永良部島（1980年/鹿児島県）、綾（2012年/宮崎県）、只見地域（2014年/福島県）、南アルプス（2014年/山梨県・長野県・静岡県）、祖母・<sup>そぼ</sup>傾<sup>かたむき</sup>・<sup>おおくえ</sup>大崩（2017年/宮崎県・大分県）、<sup>こぶし</sup>みなかみ（2017年/群馬県・新潟県）、甲武信（2019年/埼玉県・長野県・山梨県・東京都）の10地域が登録されており、その核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されています。

「ユネスコ世界ジオパーク」は、国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な開発を実現することを目的とした事業です。

現在、世界で44か国・161地域のユネスコ世界ジオパークが認定されており、日本からは、洞爺湖有珠山〔洞爺カルデラと有珠火山〕（2009年/北海道）、島原半島〔雲仙火山地域〕（2009年/長崎県）、糸魚川（2009年/新潟県）、山陰海岸（2010年/京都府・兵庫県・鳥取県）、室戸（2011年/高知県）、隠岐（2013年/島根県）、阿蘇（2014年/熊本県）、アポイ岳（2015年/北海道）、伊豆半島（2018年/静岡県）の9地域が登録されています。

また、国内版のジオパークは、日本ジオパークと呼ばれ、ユネスコ世界ジオパークの9地域とそれを目指す国内ジオパーク34地域の計43地域が認定されています。青森県内では恐山や仏ヶ浦、大間崎などで構成する「下北ジオパーク」、種差海岸を含む「三陸ジオパーク」（青森県・岩手県・宮城県）が認定されています。